

[4\_2] 図書館情報 : 九州大学附属図書館月報 :  
4(2)

<https://doi.org/10.15017/19523>

---

出版情報 : 図書館情報. 4 (2), pp.5-10, 1968-02-25. 九州大学附属図書館  
バージョン :  
権利関係 :

# 図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin Vol. 4, No. 2 Feb. 1968

## 実施段階に入った医学部雑誌の中央化計画

医学部における学術雑誌の中央化計画は、教授会の決定にもとづき、最近医学部分館で開催された教室図書主任連絡会議で、具体的に移管計画案が固まり、いよいよ実施の運びとなった。移管計画によると、2月12日から解剖学教室を皮切りに、7月末までの間に29教室に所在する約230種類の学術雑誌について、搬入・管理換・整理および排架までの一切の作業を終えることになっている。

医学部関係現行雑誌の同分館への中央化は、国内雑誌については昨年8月に終っており、国外雑誌については、一括予約購入の関係で、1968年発行のものから行なわれることになっている。これによって、医学部分館に集められる学術雑誌の総種類数は、昭和43年度新規購入雑誌60種を含め、1,052種（購入、寄贈交換を含む：和、455；洋、597）となる。

医学部内の学術雑誌中央化については、医学部分館が昭和41年4月に刊行した「図書館白書」の中にもり込まれた「雑誌の重複購入」に関する問題提起が契機となって関心が一段と高められた。

ちなみに、この「図書館白書」は、いわば医学部分館の「診断結果をまとめたもの」で、医学部図書行政の改善のための基礎資料として、作成されたものである。

医学部分館図書委員会では、この「図書館白書」が提起した全般的問題点についての検討を行なったが、特に焦眉(ひ)の問題である「医学雑誌の中央化」について重点的に検討をすすめることになった。雑誌の重複購入回避のための根本策としては、従来、教室間で個々に選択購入し、分散管理されている学術雑誌をできる限り分館で一括購入し、集中的に管理運用することが望ましいことはいうまでもない。ただ、その場合、いわゆる「中央化」の程度が問題となるが、その内容について部内の希望と見解の統一をはかるため、図書館は教授会・教室図書主任連絡会等での意見をもとに、慎重な検討を行ない、次の7つの方式案を作成して、図書委員会さらに教授会等に提示した。

- A案 完全中央化
- B案 準完全中央化：全雑誌を図書館で購入保管し、各教室に対して5種類まではある期間長期貸出しをみとめる。
- C案 大多数中央化：専門雑誌の5種類までは、講座費購入により教室保管をみとめる。
- D案 多数中央化：専門雑誌の10種類までは、講座費購入により教室保管をみとめる。
- E案 管理希望雑誌の中央化
- F案 洋雑誌のみの中央化
- G案 和雑誌のみの中央化

もちろん、A案は文字どおりの「中央化」であって、厳密な意味での中央化はA案方式しかありえぬわけである。B案以下はすべてA案の完全主義に対する現実的な修正としての意味をもつものである。それはともかく、上記について種々検討の結果、現在における諸状況を考慮してE案が採択されることになった。これは将来、D→A案への漸進的移行の含みをもっているとはいっても、「図書館白書」で強調された完全中央化の切実な意義とはかなり隔りのある結

論といわねばならない。しかし、このE案の性格は、教室の自主性を十分に尊重している点においては伝統的な発想にもとづくといえようが、たとえばある教室で全く雑誌購入をやめるならば、以後は図書館がその購入・管理を引受けるということによって、学部内の図書購入の共同分担（いうまでもなく、図書館による購入は財源的には全教室の共同購入的な性格のものであるから）の原則を打出している点、そしてそれが、支持されたという点で注目すべき意義をもっている。（別表は、この方式による中央化の実質的效果を示す。）

冒頭に述べた現況は、このE案の実現状況に外ならないが、今後の中央化へのいっそうの推進が、結局はA案に内容的に近づくことはいうまでもない。

現状においては、職員の不足という悪条件はますます深刻ではあるが、問題が医学研究上、片時もゆるがせにしない「雑誌管理」のことであるから、学内の文献利用に混乱を生じない配慮の下に、この計画の完全かつ早急な達成を計ることが望まれるわけである。

「希望雑誌の中央化」による効果

	内 国 雑 誌		外 国 雑 誌		計	
	種類数	部 数	種類数	部 数	種類数	部 数
管 理 希 望 雑 誌 (A)	81	122	145	156	226	278
Aのうち 分館が購入中の雑誌 (B)	55	55	19	19	74	74
Aのうち 分館に移管される雑誌 (A-B)	26	67	126	137	152*	204

\* 医学部購入の総種類数に対する割合 38.3%

## 文部省から「図書等の購入計画」について照会

### ——本館から各部局に希望図書の調査を依頼——

国立大学における、人文・社会科学系大学院研究科（博士課程）の基礎となる学部を対象とする、従来の特別図書購入費による図書購入計画が昭和43年度をもって終了するので、文部省では、昭和44年以降の図書購入計画策定のための参考資料を準備するため、同省から各国立大学あてに下記の購入計画に対する調査の依頼があった。これに対し、本館としては、各部局に、計画要項にもとづく各部局の希望図書について**3月末までに調査をお願いすることになった。**

#### (1) 人文・社会科学系の図書等の購入計画

これは従来の特別図書購入計画の構想と全く同一と解される。ただ、対象となる図書等については、新たに、「演劇等の録音テープ、レコードおよびビデオテープ等」の一項が追加された点だけが異なっている。

#### (2) 基本参考図書の購入計画

附属図書館の情報管理および参考業務に必要な図書等で、昭和44年度以降5カ年以内に入手可能なものとする。購入計画の対象となる図書等については、①学内に所蔵していないもので、一揃いについて購入価格が10万円をこえるもの、②一揃いについて50万円をこえるものについては、周辺の大学の附属図書館と調整を終えたものとする。③図書等の範囲は、(イ)百科事典、辞典、便覧、地図帳等、(ロ)所蔵目録、出版目録、書誌、索引、抄録等、(ハ)人名録、研究機関要覧等とする。

## 昭和43年度中央図書館指定図書の推薦について

本年も例年どおり、講師以上の教官（414名）の方々に1講座2万円の範囲内で、昭和43年度中央図書館備付けの指定図書（和漢書のみ）について推薦をお願いしたい。中央図書館で指定図書制度を導入して足かけ5年になるが、学生の単位制教育にとって不離の関係にある図書館での自学自習をより効果あらしめ、教官と附属図書館と学生とが一体となって教育効果を高めようとするこの制度の意義を、教官各位におかれてはご理解の上、いっそうのご協力をいただきたいと切に望むしだいです。推薦しめ切りは3月15日です。

## I R に つ い て

松 尾 文 碩

最近、電子計算機の関係者が「情報検索」とか「I R」(I R とは、情報検索の英語に相当する information retrieval の略語)などの言葉にふれる機会が多くなりました。情報検索という語の発明者の一人である東北大学の喜安教授による定義では、I R とは「目的を設定し、これに対して必要にして十分な情報をこれを必要とする人が、いつでも必要な時間で入手しうるような方式 (system)」だそうです。したがって、I R の例としては情報センターはもとより、人間の脳もその例として考えることができ、そのつもりになってあたりを見渡せば、あれやこれや I R の例を発見することができて、I R とは知的活動にはかならず必要で、活動が高度になればなるほど高品質の I R が要求されることがわかります。ところで、電子計算機屋のあいだで I R ということがしきりにいわれるようになったのは、情報センター等で近年の情報の増加に耐えかねて I R の機械化をもくろむようになったことと、電子計算機の性能が向上して、I R のような非数値情報処理が計算機の応用分野の中に入ってきたことによると思われます。それで、電子計算機の関係者が I R といった時には機械、特に電子計算機による情報検索を意味することが多く、また主として文献情報を取扱う情報センター等を念頭においている場合が多い、というのは汽車、飛行機の座席予約なども I R ですが、これらは文献情報の I R に比べると原理的に簡単で、すでに国鉄の緑の窓口等で一部は実用化されているからです。

さて、文献情報 I R に話を限ることにしますと、ここでは実用化への第一歩を踏み出したばかりで、現在はまだ試験的なものが多く、ある程度実用を目ざした I R でも、医学とか物理学とか分野が限られていて、性能もじゅうぶん満足のいくものとはいえないようです。いま、電子計算機を使用した I R で最も普通の方法は、文献の内容を key word と称する重要な単語の組合せで表現しておき、これをもとに検索する方式です。利用者からの要求は、thesaurus (類語集とか検索用語辞典などと訳されている) によって key word の組合せに直し、文献の key word と見比べて利用者の要求する「必要かつ十分」とおぼしき文献を取り出します。てっとりばやくいえば、ハンドソート式パンチカードによる検索と同じようなもので、カードに棒をつっこんでカードをバラバラ落しながら検索していく過程を計算機がやっているにすぎず、ただ計算機の方がはるかに高速で確実であり、また経済的だというにすぎません。つまり、I R の品質は key word の組合せの選び方と thesaurus の作り方にかかっている、しかもこれらは人間がやるのですから、計算機を使ったために全体として人間の労力が軽くなるようなものでもありません。

そこで、理想の I R として一応次のようなものも考えられましょう。それは、蓄積すべき情報をなまの形のまま機械の中に入れておけば検索質問に応じられるように自動的に情報が整理され、利用者からの要求は日本語とか英語とかの日常言語によって、マイクや電話などで機械にしゃべってやると、機械は要求された情報として文献のみならず知識そのものを知らせてくれるようなものです。こんな機械を実現させるためには、計算機の記憶容量の増大や演算速度の高速化などの性能向上のほか、二つの技術を完成させねばなりません。一つは機械によって図形、文字、音声などを識別する技術、すなわち機械によるパターン認識の技術と、もう一つは自然言語を機械で処理する技術です。この二つは I R だけではなく、機械による非数値情報処理に共通した「技術の壁」ともいうべきもので、多くの努力がなされているのですが、簡単に解決できる問題ではありません。これらの技術は一挙に完成する性質のものではなく、種々の装置の発明や改良といろいろな方式の提案が積み重なってしだいに完成して行くものと思われます。それに伴って、I R もしだいに高品質のものが作られていくことでしょう。I R も機械翻訳や他の非数値情報処理と同じく、これからの技術といえます。

(まつお・ふみひろ：工学部助手；電子工学)

## 学内図書館めぐり

### 医学部図書館の沿革 (5)

### 中央図書室時代 (2)

昭和22年、無名時代最後の図書室は、当時の内科共同図書室（註：現循環器内科医局および同研究室）の一隅に同居していたが、図書の保管と運用についてもまた、内科共同の専任職員が委託をうけて兼務していた。当時の記録から蔵書だけについていえば、引越前の同年12月現在で次のような数字となっている。（註：和洋の区別はない）

種 類	医単行書 (基礎)	医単行書 (臨床)	教養文学書	医学雑誌	総 計
冊 数	410	404	295	1,708	2,817

23年1月、当時の学生自治会図書部委員（註：躬行会図書部委員の改称）の協力をえて、内科共同図書室から現医学部事務室に引越した。〔註：現学生掛室約14坪（42 m<sup>2</sup>）に閲覧室45席があり、歯学部事務室約30坪（91 m<sup>2</sup>）は書庫と事務室兼用〕。ちなみに、この移転は4回目であった。すなわち、第一期揺籃時代に元の放射線医学教室にあったものが、第二期無名時代の頃に当時の医学部事務室（一階木造建築）の一隅に移った。（註：現在は医学部中央講堂、北側の緑地帯となっているので、当時の位置を知るよすがとして元事務室玄関前に群生していたといわれる竹林が今は5〜6本だけ名残りをとどめている。）この間、第二次世界大戦が始まって、戦況が苛烈になるにつれ、学内の図書一殊に木造建物中の図書一の疎開移転が始まった。そこで前記図書室図書も他の木造建教室の図書と共に、現法医学教室の地下室へと学内疎開のため移動したわけである。その時期は17〜8年の頃であつたらしく、そこで辛うじて学生図書室として、余命が繋がれていたようである。20年夏の終戦を迎えて、法医学教室地下室から、前記内科共同図書室へと第三次の移転が始まった。それから医学部事務室（鉄筋3階）への引越しまでの約2年間、通称学生図書室は、前記学生図書委員達の積極的な活動と内科共同専任職員（2名）の事務管理でとにかく運用はつづけられていた。

23年1月中旬、米国図書館協会ならびにロックフェラー (Rockefeller) 財団の好意で、戦時中および戦後出版の医学雑誌の寄贈をうけたのを皮切りに、その後も海外からの医学図書（雑誌をふくめて）の寄贈が相次いだ。この中には、中央図書室時代末期から医学部分館時代にかけて数年継続寄贈されたものもあった。次にあげるものは寄贈団体の主なものとその寄贈内容である。

- 1 米国陸軍医学図書館（医学単行書）
- 2 カナダユネスコ協会 (① Canadian medical Association journal. 1950-52. ② Lancet. 1950-52.)
- 3 C.I.E. 図書館（医学単行書）
- 4 ロックフェラー財団（米国出版の代表的医学教科書、参考書および専門雑誌）
- 5 コペンハーゲン大学図書館（学位論文）
- 6 世界奉仕財団米国委員会（新刊医書）
- 7 ユニタリアン・サービス・コミッティー（新刊医書）
- 8 China Medical Board（米国出版の新刊医書）
- 9 その他米国各大学医学図書館（医学雑誌）

なお、このなかでも特筆すべきことは、24年6月、ロックフェラー財団からアメリカの代表的新刊医学雑誌33種を1950年以降3カ年にわたって継続寄贈を受けたことである。（註：この後は本学での継続購入に切替えられ、今日に至っている。）また、China Medical Boardからは新刊医学単行書が1952〜64年にわたって継続寄贈された。これには、戦禍をうけた日

本の大学医学図書館の約半数近くが恩恵に浴したわけであるが、これが戦時中の医学研究分野における後進性をとり戻し、国内での文献交流に役立ったことは疑いない。(註: 受贈大学の数も当初よりは順次その数を増した。) 更にまた、23年8月中旬、東大医学部で開催された日本医学図書館協議会臨時総会(註: 九大医学部から山川事務主任出席)において、当時の米国 Army Medical Library (National Library of Medicine の前身) から、日本にない医学雑誌のバック・ナンバー(註: 1941 年中期から 1950 年前後に至る期間)の Interlibrary loan による複写無料サービス(ただし郵送料は別)提供の好意的な申入れが行なわれた。重複申込を避けるために日本における窓口は東北大学医学図書館に決定した。この窓口は35年頃から東大医学部内の日本医学図書館協会中央事務局に移ったが、ともあれ、今日まで20年、年とともに増加しつつあるこの NLM の複写サービスが、日本の医学研究にいかに多く 寄与しているかは計り知れないものがある。

## ◆ 研 修

### 文部省主催ドキュメンテーション講習会(第7回)

〈とき・ところ: 昭和43年1月30日～2月2日(東京大学)同年2月6日～9日(大阪大学)〉

今回は、「学術情報流通過程における学術雑誌の諸問題」を中心テーマとし、学術情報の流通過程において主要な役割を果たす学術雑誌の本来のあり方を分析し、ドキュメンテーションの面から見た望ましい学術雑誌の作成法の問題に焦点をしばって、日程が編まれた。

講演は、内外の学術情報体制の諸問題、学術雑誌の在り方、学術雑誌の編集方法、投稿規定、著者抄録、索引、学術雑誌のレイアウトについて、また、第3日には二次文献作成者からみた学術雑誌の諸問題について、パネルディスカッションが行なわれ、最終日には IBM 磁気テープによる欧文誌の経済的印刷方法を実地に見学した。

なお、大阪会場の講習会に、本学から医学部分館山川閲覧掛長が参加した。

### 学内図書系掛長会議

〈とき: 昭和43年1月30日 ところ: 中央図書館新刊雑誌室〉

本館事務課長、各掛長、学内図書掛長、図書主任ら24名が出席して開かれた。伊藤館長のあいさつの後、本館事務部から連絡、報告事項の説明があり、引き続き当日の議題である「本学における外国雑誌契約上の諸問題」について審議した。本件については、審議経過を含めて、いずれ稿を改めて逐次紹介する予定であるが、当日は初回の審議であったため、問題点の指摘のみにとどまった。望ましい改善案を作るためには、なお相当期間綿密な検討を必要とするので、本件審議のため、5名の調査委員を指名し、今後検討を重ねていくことになった。

なお、当日午後は、数機種による電子複写機の実演と各機種の比較研究会を実施した。

## 受賞候補者の募集または推薦依頼について

図書館学および情報科学技術の分野で研究業績または功労のあった者を表彰し、研究を奨励する目的で、従来、次の二つの賞が設けられておりますが、本年も次の要項によって関係団体から候補者の募集、推薦の依頼がありました。どうか趣旨をお含みの上、奮って応募されるよう望みます。推薦の場合(自薦・他薦どちらでも結構です。)本館庶務掛までご報告ください。

### 1 岸本奨励賞(募集团体: 全国国立大学図書館長会議)

前東京大学附属図書館長故岸本英夫博士のわが国の大学図書館に尽くされた功績をすえ永く伝えるために、全国国立大学図書館長会議で記念事業を発起し、全国の図書館関係者およびその他各方面から寄せられた浄財によって、岸本英夫博士記念基金が設置されている。そして、この基金から国立大学図書館職員の優れた功績、また研究業績に対し、毎年、奨励賞が贈られる。

## 昭和43年度 岸本奨励賞募集要項

資格 国立大学附属図書館に在職している者  
 締切 昭和43年3月15日（郵送の場合 当日の消印あるものは有効とする）  
 手続 応募者または推薦者は、下記の1,2に該当する論文 およびその他の資料を館長会議事務局に提出すること  
 1. 図書館学に関する研究業績  
 2. 図書館活動における功績  
 注：(1) 1については、既発表、未発表をとわぬ。ただし、既発表のものは過去3年以内のものとする。  
 提出論文には、梗概(2,000字以内、および履歴書を添えること。  
 (2) 2については、応募者の所属する大学の附属図書館長の推薦を必要とし、その

推薦書とともに、選考に必要な資料 および履歴書を提出すること。  
 (3) 上記1,2とも応募は個人またはグループをとわぬ。  
 (4) 提出書類は、いずれも3部とする。  
 (5) 提出書類は原則として返却しない。  
 選考と決定 奨励賞受賞者選考委員会が 選考にあたり、総会（第15次全国国立大学図書館長会議）の承認を得て受賞者を決定する。  
 表彰 第15次総会（昭和43年6月）において 表彰を行ない、表彰状と奨励賞を贈る。  
 提出先  
 東京都文京区本郷7丁目3の1  
 東京大学総合図書館内  
 全国国立大学図書館長会議事務局

## 2 日本科学技術情報センター丹羽賞（募集団体：日本科学技術情報センター）

情報科学技術の分野で優れた業績のあった者を対象に、日本科学技術情報センター前理事長丹羽保次郎氏の寄金をもとに一昨年創設された。

## 第3回「日本科学技術情報センター丹羽賞」募集要項

## 対象

## ① 学術賞

- (イ) 昭和42年中に「情報管理」「ドキュメンテーション研究集會予稿集」およびその他情報科学技術関係の公開された刊行物に情報科学技術に関し優れた研究成果を発表した者  
 (ロ) 昭和42年中に情報科学技術（プロセスなど）の進歩に功績のあった者

## ② 功労賞

永年科学技術情報活動の発展に貢献した者

## 応募方法

- ① 関係機関などの推薦または本人の申請による。  
 ② 指定の様式により13部（説明資料があれば同様13部添付のこと）を送付する。  
 ③ 期限 昭和43年2月末日  
 ④ 送付先（連絡先）  
 東京都千代田区永田町 2の5-2  
 日本科学技術情報センター  
 総務部総務課内  
 「丹羽賞」事務局 TEL 591-6411（代表）

## ◆ 人事異動

## 附属図書館商議委員の異動

農学部選出の商議委員の任期満了に伴い、下記のとおり発令があった。

43.2.1 岩片磯雄（農学部）（筑紫春生委員の後任）

〃 太田 基（〃）（井上由扶委員の後任）

## 図書系職員の異動

43.1.31 大部陽子（医学部分館目録掛）退職

〇〇あとがき〇〇

□先日エンタープライズ佐世保入港の折は、教養部へ男子職員の動員、開館時間の短縮など、いつもは静かな学究の場である図書館も多少動揺しました。

□正門の近くに、「御健闘を祈る」などと書かれた看板がならびはじめました。入学試験の時期をむかえて、文道の神、菅原道真を祭った太宰府天満宮では、学校ぐるみ貸切バスで参拝する受験生の群や父兄の合格祈願に、境内の梅が心なごませているようです。梅は晋の武帝が「好レ文則梅開、廢レ学則梅不レ開」といった語から「好文木」ともいい、天神の神木にふさわしく思います。□菅公はまた図書館史上でも有名で、書斎であった紅梅殿を公開して文庫としました。この文庫を利用した菅家一門から多くの秀才進士を輩出したので当時世人から紅梅殿は龍門に擬せられたことがみえています。ほかに公家文庫でよく知られているものに石上宅嗣の「芸亭」、大江匡房の千草文庫などがあります。